

第十一卷刊行に際して

顧れば大正十五年七月本誌第一卷第一輯を刊行してから早や十年餘の歳月が流れました。その間吾人は編輯者として可なり困難なる荆棘の途を辿りましたが、幸にも漸次發達を遂げこゝに十卷のバックナンバーを並べて見ると感慨のいとも深いものがあります。

今や本誌第十一年の春を迎へて更に新しい生命が吹き込まれたことを吾人の限りなき喜びと致します。それは卷頭に小照と小傳とを載せさせて頂いた東京藤井榮三郎様の美しい御寄附が基となり櫻井錠二先生、大幸勇吉先生の御指導、吾が國物理化學者の大多數の御参加、廣く篤志家の御贊助で昨秋日本物理化學研究會なるものが新しく生れました。吾が國物理化學研究の洋々たる將來の發展が期待されます。本誌の刊行もその日本物理化學研究會にゆだねらるゝ事となり將來は同會の機關雜誌として充分の機能を發揮すべき使命を持つ事となりました。

從つて新裝の本誌は原報も全部歐文に改められました。今の處内地版は從來の通り年六回刊行とし外國版は年三回刊行、而して本誌にのせられない吾が國物理化學關係の研究全部歐文で抄録して日本物理化學研究の世界的紹介の使命を全ふする筈であります。本誌の使命が世界的になりましたから讀者諸君もその御考へで今後の御後援を御願ひ致します。

過去十年を回顧し今後十年後の本誌の將來を思ふ時、吾人の心は躍る。十年後の本誌は必ずや世界第一流の權威ある物理化學雜誌として發展してゐる事を豫想し、否確信して本誌の將來を祝福したいと思ひます。

堀 場 信 吉